

越谷市建築協定フォーラムコーナー

ふあ〜らむ

「越谷市建築協定フォーラム」は建築協定地区の住民が中心となり、定期的に情報交換や勉強会を行う場です。この活動を継続的に運営するため、現在は平成24年6月に設立されたNPO法人越谷市住まい・まちづくりセンターが中心となって運営を支援し、「越谷市住まい・まちづくり協議会」の事業活動の一環に組み込まれています。

■越谷市建築協定フォーラム事務局:越谷市都市整備部建築住宅課内 埼玉県越谷市越ヶ谷4-2-1 TEL.048-963-9235 FAX.048-965-0948

住まい・まちの管理や運営に関する専門家のサポートを受け、住民の自主的な取り組みが各地区で進められています。

●花と果樹の街 しがや 建築協定地区

越谷市では一番新しい建築協定地区で、平成25年7月に入居パーティが行われ建築協定運営委員会が設立されました。

この地区は多くの花や果樹が植えられており、これらの草木の手入れを通し良好なコミュニティの形成を推進しています。

特に共有地である果樹の小道にはぶどう棚があり、ワークショップを通し収穫祭の楽しいイベントや管理技術の習得を行っています。



●大道・屋敷林の会

昨年に引き続き、みどりの埼玉づくり県民提案事業(わが街緑化支援事業)の助成を受け、おおみち屋敷林の路づくり事業を実施しました。今年度は緑化活動の前に、大道地区のみどりと歴史を学ぶ街歩きワークショップを行いました。この結果、家族連れで楽しく参加でき、緑化活動に対する啓発を行なうことができました。

この活動はしがや・四季の路建築協定地区の住民が中心となって地元自治会と連携して地域活動を行っており、NPO法人越谷市住まい・まちづくりセンターも協力しています。建築協定地区内だけではなく、地域に活動を波及させているので越谷市からも注目されています。



お知らせ 出前講座による地区別勉強会のススメ

平成26年3月下旬に「コミュニティタウン東越谷 建築協定地区」で建築協定の勉強会を開催します。他地区の方もご希望がありましたら事務局までご連絡を。また、役員さんの勉強会などについてもご相談ください。

2014 SPRING Koshi-machi news Vol.3

【越谷市住まい・まちづくり協議会】ニュース 第3号……平成26年2月

こし-まち だより

■編集・発行 越谷市住まい・まちづくり協議会 ■事務局 埼玉県越谷市宮本町2-185-12 TEL.048-965-5358 FAX.048-966-7066

居住福祉部会では、「空き家・空き室・空き地に関するなんでも相談会」をスタートさせました。

空き家問題は、個人の問題や住宅単体として考えるのではなく、地域課題と捉えることにより共助社会の住まい・まちづくりにつながります。放置せずに、社会の資源として利活用することで地域のまちづくりにも貢献できます。

全国各地で空き家の発生が顕著となっており、越谷市でも空き家数は平成20年住宅・土地統計調査で14,240戸(10.43%)とされています。空き家によって引き起こされる問題としては、まちの空洞化や防災・防犯の対応に対する低下、ゴミの不法投棄等による衛生問題、景観の阻害などが挙げられ、早急に解決すべき地域の課題の一つとなっています。



●潜在している空き家・空き室の顕在化

空き家には個々の事情によって有効に利用されずにいるものと、老朽化して地域の景観や安全性を損なうような形で放置されたものがあります。あまりにも老朽化したものは解体が必要ですが、利活用できる空き家・空き室は住宅ストックとなり得ます。

このストックとなり得るが潜在化してしまっている空き家・空き室を顕在化させるために、今年度は

●今年度の成果と今後の展開

相談会で得られた、空き家・空き室のストック情報の管理と発信をするために「空き家バンクを」設立し、ストックの利活用を促していきます。その最初の取り組みとして、空き家バンク物件情報を越谷市住まい・まちづくり協議会のホームページにアップしました。通常の不動産仲介情報では見つかりにくい情報の蓄積とマッチングを図ります。

なお、来年度の相談会は、会場を越谷市役所1階玄関ホールに移して、毎月第3木曜日の13:30から16:30まで実施する予定です。

越谷市住まい・まちづくり協議会では、高齢化、相続、建物の老朽化など様々な理由で発生する空き家・空き室・空き地を地域の社会資源と捉え、その対策や有効利用を居住福祉の視点から考えます。平成24年度には新しい公共支援事業の助成を受け、市内の空き家・空き室の実態調査と利活用のための研究を行った結果、この問題への持続的な取り組みが必要であることがわかりました。

平成25年度埼玉県共助社会づくり支援事業の助成を受け、相談員の育成を行い、「空き家・空き室・空き地に関するなんでも相談会」を設置しました。越谷市の協力を得て、月1回の相談会を定例化、8月から2月まで7回開催した相談会で、合計9件の相談を受けています。事業の可能性のある物件については基礎調査を行うなど、個々のケースに対応した適切な提案を行って有効利用を図ります。



越谷市景観計画の運用開始にともない、“景観まちづくり”への取り組みが本格的にスタートしました。

2月15日開催「第2回 越谷市景観シンポジウム」

越谷市では、越谷らしい景観の形成を目指して、景観法に基づく景観計画と景観条例を策定し、平成25年10月から運用を開始しました。

平成26年2月15日(土)、市民や事業者と連携・協働して行う新たな景観づくりの取り組みに向けて、越谷市の主催、

越谷市住まい・まちづくり協議会の協力により、越谷レイクタウンにて景観シンポジウムが開催されました。

プログラムは、越谷市景観写真コンクールの表彰式に続き、日本大学工学部岸井隆幸教授の講演「これからの景観づくり」。岸井先生は越谷市景観評価委員会の会長でもあり、首都圏や越谷市に則した市民にわかりやすいお話をしてくださいました。最後に越谷市住まい・まちづくり協議会の活動報告と



して、文教大学との連携や、住まい・まちづくり大学受講生による成果発表が行われました。

会場の「水辺のまちづくり館」からは、本来ならば明るく気持ちのよい風景が望めるはずですが、2週

続けて記録的な大雪に見舞われたこの日、眼前には鉛色の湖が横たわっていました。しかし、あいにくの天候と交通の乱れにもかかわらず、訪れた市民の皆さんが会場の席を埋めてくれ、朝から雪片付けに追われた市職員やボランティアスタッフもひと安心しました。



今年も開講！「越谷市住まい・まちづくり大学」

越谷市住まい・まちづくり大学は、共助社会における住まい・まちづくりの担い手(人材資源)の発掘、育成を目指して、昨年度開校しました。都市計画、建築、環境、コミュニティなど住まい・まちづくりに関わる多様な分野の専門家、研究者を講師に迎え、大学での講義と違って平易にわかりやすく説くという連続レクチャーです。

第2期生となる今年度は、全講座を通して「景観まちづくり」がテーマで、昨年9月の開講式から5回の講義と各1回のフィールドワーク、ワークショップという体験型プログラムが組まれました。



12月最終講座のワークショップでは、事前に課題として、各自の目線で市内の景観写真を撮り集めてもらい、それをもとに3グループに分かれて議論や研究を進め、「景観まちづくり推進策・市民からの提言」としてまとめました。

この成果を2月15日景観シンポジウムで発表し、これをもって所定の全課程を修了しました。当日は学長の岸井隆幸先生より、9名の受講生の皆さんに

修了証が授与されました。同時に、優秀な人材として「住まい・まちづくり人材バンク」に登録され、今後のまちづくり活動に関わっていただきます。



景観まちづくり・先進事例の視察研修【横須賀編】

平成25年11月21日(木)、越谷市職員、埼玉県職員、NPO法人住まい・まちづくりセンター一会員、総勢8名で「よこすか都市景観協議会」(事務局:横須賀市都市部市街地整備景観課内)を訪問しました。

穏やかな田園地帯に囲まれた越谷とは異なり、横須賀は起伏の激しい丘陵地に住宅が建ち並び、丘の上から港が望めるメリハリのきいた景観で、全国的に知られています。

この風景や眺望を守り育てるための対策は早くから取り組まれており、「よこすか都市景観協議会」は、横須賀にふさわしく魅力ある都市景観の実現に寄与することを目的に景観法制定以前の平成9年に設立されました。景観形成に関わりのある諸団体が会員となり、都市景観フォーラムをはじめとする各種事業に取り組んでいます。

官民一体となって進める景観協議会の組織づくりや運営についてヒアリングさせていただきたいという、当方の申し入れに対して、横須賀市職員や協議会構成団体のメンバー、合計8名の皆様が集まり、たくさんの資料を揃え、たいへん丁寧にご対応いただきました。ありがとうございました。



景観まちづくり・先進事例の視察研修【オランダ編】

平成25年10月6日～16日、当協議会関係者有志6名によりオランダ視察を敢行しました。オランダは、歴史的景観を守りながら快適な都市づくりを進めたり、歩行者や自転車優先の交通システム、市民主導のまちづくりなど、ヨーロッパでも先進的なまちづくりが特徴で、その事例を学ぼうというものです。

現地では、アムステルダム市都市計画局を始め、設計事務所2社を訪問し、現在のオランダの都市計画や住宅の設計に関してヒアリングしました。また、デルフトやユトレヒトにある歩車共存道路「ボンエルフ」や、世界遺産の個人住宅「シュレーダー邸」、各都市の再開発地域、さらにオランダの市民農園「フォルクス・トゥーンチェ」を訪れたり個人宅におじゃまさせていただくなど、通常では見ることのできない場所も見学できました。

この視察では、歩行者優先の道づくりなど、日本のまちづくりとの大きな違いに衝撃を受け、越谷だけでなく日本における課題を実感しました。今後は、参加者それぞれが、越谷のまちづくりにどのように生かしていくかが課題となります。帰国後は、市民や市の職員に向けた報告会を開催し、25名の参加者が集まりました。

